

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-844
施設名	新宿こだま保育園
施設所在地	東京都新宿区中落合4-25-19
法人名	社会福祉法人呉竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年度 4月 月実施

食育	サブ テー マ	ココア蒸しパンをつくろう
-----------	---------------	---------------------

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
食育が毎日の活動に溶け込んでいる… これは当園の大きな特徴である
前年に引き続き、当園の理念「社会を生きる力を培う」の実現手段の一つとして実践。一過性の行事ではなく、毎日の活動の中で『食育』を展開することが重要と認識している。
みんなで食べるとよりおいしいことを知ってほしいためこのテーマを設定

1. サブテーマのねらい

食材に触れながら、匂いや感触の違いを楽しむ。
「まぜる」「入れる」「のせる」など簡単な調理体験を通して、食への興味や意欲を育む
友だちや保育者と一緒に作る楽しさを感じる。
蒸しパンが膨らむ様子や変化を見ながら、不思議さや期待感を味わう。
自分で作ったものを食べる喜びを感じ、楽しい食事体験へ繋げる。

2. 活動スケジュール

絵本や写真を見ながら「蒸しパンってなんだろ？」と話をする。材料を見たり匂いを嗅いだりして興味を持つ。
米粉やココアパウダーに触れ、粉の感触を楽しむ。
保育者と一緒に生地を混ぜる。カップに生地を入れ、好きなようにトッピングを行う。
電子レンジで蒸している様子を見たり、「おおきくなあれ」と声を掛けながら完成を楽しみに待つ。
できあがった蒸しパンをみんなで食べる。味や匂い、ふわふわした感触を感じながら味わう。

3. 環境をデザイン

- 子どもが見やすい位置に材料や調理器具を配置し、「やってみたい」と思える環境を整えた。
- 調理前からココアの匂いを感じられるようにし、五感を使って楽しめるようにした。
- 混ぜる工程では、一人ひとりが順番に参加できるように少人数で行った。
- 完成した蒸しパンの写真や実物を掲示し、活動後も会話ができるようにした。
- 安心して参加できるよう、保育者が近くで見守りながらゆったりとした雰囲気作りを行った。

4 探究活動を実践し記録

子どもたちは粉の状態から生地へ変化していく様子に興味を示し、「まぜまぜ」と言葉にしなが楽しんでた。ココアの匂いを感じると、「チョコみたい」「あまみにおい」などの言葉がでてきた。
また、蒸し器の中を覗き込みながら「まだかな？」と言ったり、蒸しパンが膨らんでいく様子に驚く子どももいた。
自分でカップを持ったり、スプーンで混ぜたりすることに喜びを感じ、何度もやってみようとしていた。

5. 活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関り等

<活動の内容>

活動では、保育者と一緒に材料を混ぜたり、生地をカップへ入れたりしながら調理体験を楽しんだ。初めは慎重に見ていた子どもも、友だちが取り組む姿を見ることで興味を持ち、自ら手を伸ばして参加する姿があった。
「くるくる」「できたね」など簡単な言葉のやり取りをしながら、保育者との関わりを楽しむ姿も見られた。また、自分で作った蒸しパンを嬉しそうに食べ、「おいしい」と笑顔を見せる子どもが多かった。
保育者は子どもの発見や気づきに共感しながら言葉を添え、一人ひとりの“やってみたい”気持ちを大切に関わった。

<活動の様子が分かる写真>



6. 振り返る・共有する

実際に材料に触れたり調理工程を経験したことで、食材や食事への興味に繋がっていた。
特に、自分で混ぜたり作ったりしたことが満足感が食欲へと繋がり、普段少食な子どもがおかわりをする姿もなどの変化が見られた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-844
施設名	新宿こだま保育園
施設所在地	東京都新宿区中落合4-25-19
法人名	社会福祉法人呉竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年度 5月 月実施

食育	サブ テ マ	さつまいもの苗植え (埼玉・本園の新宿専用畑)
-----------	--------------	-----------------------------------

<テーマの設定理由>

<p>(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)</p> <p>食育が毎日の活動に溶け込んでいる… これは当園の大きな特徴である前年に引き続き、当園の理念「社会を生きる力を培う」の実現手段の一つとして実践。一過性の行事ではなく、毎日の活動の中で「食育」を展開することが重要と認識している。</p> <p>みんなで食べるとよりおいしいことを知ってほしいためこのテーマを設定</p>	<p>3. サブテーマのねらい</p> <p>植物や野菜の成長過程への興味・関心を深めるための第一歩として、畑を耕し、苗を植える一連の作業を体験する。</p>
--	---

2. 活動スケジュール

<p>前年度に埼玉・本園の新宿こだま専用畑へ植えたチューリップの活動を振り返り、植物の成長や収穫への期待感を共有する。</p> <p>子どもたちに、新たな苗を植えに行くことを提案する。</p> <p>今回育てる植物について子どもたち同士で話し合いを行い、出された意見をもとに、今年度はさつまいもを育てることに決定する。</p> <p>埼玉・本園へ行くためのバスチャーターの手配を行う。</p> <p>植え付けに使用するさつまいもの苗の手配（購入予約）を行う。</p>	<p>3. 環境をデザイン</p> <p>本園へ行く際の持ち物や当日の流れを丁寧に確認できるよう、「けやきノート」（遠足のしおり）を子どもたちと一緒に作成する。</p> <p>子どもたちが安心して苗植え活動に取り組めるよう、事前に園長が畑へ行き、耕運機等を使用して畑を耕し、苗を植えやすい環境を整備する。</p> <p>「けやきノート」を活用しながら、本園の畑へ行くことへの期待感や興味・関心が高まるよう働きかけを行う。</p>
---	--

4 探究活動を実践し記録

<p>前年度にチューリップの植栽活動で埼玉・本園を訪れていた経験があったことから、子どもたちは二度目の訪問に親しみや安心感を持ちながら活動へ参加していた。畑へ到着すると、自分たちから積極的に苗の植え方を教わろうとしたり、必要な道具を運んだりするなど、主体的に活動へ関わっていた。</p> <p>苗植えの活動では、さつまいもを育てるためには土の栄養や水分が必要であることを知り、「人もごはんや飲み物がよから一緒だね」と話す姿もあった。植物の成長に必要な条件について、自分たちの生活と結び付けながら理解を深めている様子うかがえた。</p> <p>また、継続的な栽培活動を行う中で、「次に来るときは大きくなっているかな」「ちゃんと水をあげないと元気がなくなっちゃうかもしれない」など、成長への期待や継続的に育てることへの意識も芽生えていた。活動後には写真や会話の記録を残し、子どもたちが感じたことや気づきを振り返る機会を設けた。</p>

5. 活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関り等

<活動の内容>

<p>子どもたちは、苗を手にとると「葉っぱがやわらかい」「根っこがあるね」など、苗の様子に興味深く観察していた。苗を植える際には、保育者や本園職員の話の聞きながら、「これくらい土をかければいいのか」と確認し合い、友だち同士で協力しながら作業を進めていた。</p> <p>また、年に数回程度の訪問となるため、「水やりをお願いしよう」「大きく育ててね」と、本園の年長児へ水やりを依頼する場面もあった。活動を通して、栽培への関心だけでなく、姉妹園の子どもたちとの交流も深まり、畑作業後には一緒に園庭で遊ぶなど、自然な関わりが生まれていた。</p> <p>保育者は、子どもたちの発見や疑問を受け止めながら、「どうして水が必要なんだろうね」「さつまいもはどんなふうにつくかな」などの言葉掛けを行い、子どもたちが自ら考えたり気づいたりできるよう援助を行った。また、子ども同士の対話や協力する姿を見守りながら、安心して主体的に活動へ取り組める環境づくりを意識して関わった。</p>

<活動の様子が分かる写真>



6. 振り返る・共有する

<p>活動後には、撮影した写真や「けやきノート」を活用しながら、苗植え当日の出来事や感じたことについて振り返りを行った。子どもたちからは、「土がふかふかだった」「さつまいもの苗は思ったよりやわらかかった」「早く大きくなってほしい」など、それぞれの気づきや感想が聞かれた。</p> <p>また、「水がないと育たないんだよね」「お世話をしないと元気がなくなっちゃう」など、活動を通して知ったことを友だち同士で共有する様子もあった。畑での経験を振り返ることで、植物の成長に必要なものや育てることの大変さについて、自分なりに考えを深めている様子うかがえた。</p> <p>さらに、本園の年長児へ水やりをお願いしたことについても話題となり、「次に行くとき大きくなっているかな」「みんなで収穫したいね」など、継続的な栽培活動への期待感を持つ姿もあった。</p> <p>保育者間でも、活動中の子どもたちの様子や発言を共有し、主体的に取り組む姿や植物への興味・関心が高まっていることを確認した。また、子どもたちの気づきや疑問を今後の栽培活動や保育内容へつなげられるよう、写真や記録を活用しながら振り返りを行った。</p>
--

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-844
施設名	新宿こたま保育園
施設所在地	東京都新宿区中落合4-25-19
法人名	社会福祉法人呉竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年度 6月 月実施

食育	サブ テー マ	味噌汁作り
-----------	---------------	--------------

<テーマの設定理由>

<p>(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 食育が毎日の活動に溶け込んでいる… これは当園の大きな特徴である 前年に引き続き、当園の理念「社会を生きる力を培う」の実現手段の一つとして実践。一過性の行事ではなく、毎日の活動の中で「食育」を展開することが重要と認識している。 みんなで食べるとよりおいしいことを知ってほしいためこのテーマを設定</p>	<p>3. サブテーマのねらい</p> <p>ナイフを使った調理を体験し、自分たちで作ったものを食べる喜びを味わう。また、友だちや保育者と一緒に調理する楽しさを感じながら、食材や調理への興味・関心を深める。</p>
---	---

2. 活動スケジュール

3. 環境をデザイン

<p>① みそ汁作りの活動に向けて、給食職員と保育者で事前に手順や安全面の確認を行い、調理の流れを共有する。 子どもたちが安心して参加できるよう、ベティーナイフの使い方や約束（持ち方・切るときの姿勢・安全への配慮）について事前に丁寧に説明する。 ② 使用する食材や調理工程を整理し、子どもたちが無理なく参加できるよう、役割や関わり方を検討する。 ③ 活動当日は、子どもたちの興味や発達に応じて、「切る」「ちぎる」「混ぜる」など、多様な関わり方ができるように準備する。</p>	<p>子どもたちが安心して調理活動に参加できるよう、ベティーナイフや調理器具の配置を整え、安全に扱える環境を整備する。 食材は見やすく・触れやすい状態で準備し、断面を観察できるようにすることで、興味や気づきを引き出すよう工夫する。 給食職員と連携し、子どもたちが「一緒に作る」経験を楽しまれるよう、役割分担や声掛けの流れを共有する。 ナイフを使う活動に不安がある子どもも参加できるよう、スプーンでちぎる、食材に触れる、観察するなど、多様な関わり方を用意する。</p>
---	---

4 探究活動を実践し記録

<p>ナイフに挑戦したい子どももいれば、友だちの活動の様子をじっくり観察する子どももあり、活動への関わり方は様々であった。また、スプーンを使って食材をちぎるなど、それぞれが自分に合った方法で参加することができていた。 みそ汁作りでは、食材を切る・ちぎる・混ぜるといった工程を通して、食材の変化や形の違いに気づく経験につながった。野菜の断面を観察しながら、「中はどうなっているのかな」「どんな匂いがするのかな」など、五感を使って興味を深める姿も見られた。 また、調理の過程の中で、「やってみよう」という気持ちが自然に広がり、食材や調理器具への関心が高まっていった。友だちの取り組みを見ながら挑戦しようとする様子もあり、活動を通して調理への意欲が育まれていた。</p>
--

5. 活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関り等

<活動の内容>

<p>子どもたちは、ベティーナイフや食材に興味を持ちながら活動へ参加していた。実際に野菜に触れると、「かたいね」「においがする」など、感じたことを言葉にしながら調理を楽しんでいた。 ナイフを使う際には、保育者と一緒に持ち方を確認しながら慎重に取り組む姿が見られた。一方で、すぐには参加せず、友だちの様子を見ながら安心して関わろうとする子どももいた。 また、断面を見て「中に種がある」「丸い形になっている」など、食材の特徴に気づく姿もあり、観察を楽しみながら活動へ参加していた。 保育者は、安全面に十分配慮しながら、子どもたちの「やってみよう」という気持ちを受け止め、一人ひとりのペースに合わせて援助を行った。また、「どんなにおいがするかな」「切ると中はどうなっているかな」などの言葉掛けを行い、子どもたちの気づきや興味が広がるよう関わった。</p>
--

<活動の様子が分かる写真>



6. 振り返る・共有する

<p>指先を使ったクッキング活動は、子どもたちにとって良い刺激となっていた。また、野菜の断面を観察する経験を通して、食材への興味や想像力が育まれている様子が見られた。 活動後には、自分たちで作ったみそ汁を実際に食べながら、「自分で作った」という達成感を味わっている様子が見られた。「おいしい」「野菜の味がする」など、自分で調理した経験を言葉にして伝える姿もあった。 さらに、断面を見た経験や切った感触について振り返り、「中が見えて面白かった」「またやりたい」と話す子どももいた。 保育者間では、ナイフへの挑戦や観察を楽しむ姿など、子ども一人ひとりの関わり方の違いを共有し、今後の食育活動へつなげていくための記録として振り返りを行った。</p>

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-844
施設名	新宿こだま保育園
施設所在地	東京都新宿区中落合4-25-19
法人名	社会福祉法人呉竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年度 7月 月実施

食育	サブ テー マ	水耕栽培で野菜(レタスマックス)を育てる
-----------	---------------	-----------------------------

<テーマの設定理由>

<p>(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)</p> <p>食育が毎日の活動に溶け込んでいる…これは当園の大きな特徴である前年に引き続き、当園の理念「社会を生きる力を培う」の実現手段の一つとして実践。一過性の行事ではなく、毎日の活動の中で『食育』を展開することが重要と認識している。</p> <p>みんなで食べるとよりおいしいことを知ってほしいためこのテーマを設定</p>	<p>1. サブテーマのねらい</p> <p>野菜に興味・関心を持つ。</p> <p>野菜の育て方には、土に植える以外の方法があることを知る。</p> <p>観察ケースを身近な場所に設置することで、土耕栽培とは異なる頻度や視点で観察を行い、興味・関心の幅を広げる。</p> <p>土耕栽培では観察しにくい根の成長を観察する。</p> <p>生育が比較的早い水耕栽培の特性を活かし、複数回の収穫を経験することで、多くの子どもが収穫</p>
---	--

2. 活動スケジュール

<p>水耕栽培用の観察ケースや種などを準備し、園児だけでなく保護者の目にも触れやすい場所へ設置する。</p> <p>種まきを行い、発芽までの様子を観察する。</p> <p>発芽後は、シャレ等から水耕栽培キットへ移し替え、生育の変化を継続的に観察する。</p> <p>野菜が育つ過程を写真や記録として残し、掲示を行う。</p> <p>生長した野菜を子どもたちと一緒に収穫し、調理や食を楽しむ。</p>	<p>3. 環境をデザイン</p> <p>職員室前(エントランス)に水耕栽培キットを設置することで、子ども同士の会話や登降園時の親子の会話につながり、自然と興味・関心を持てる環境を整えた。</p> <p>「これはなんの野菜かな?」「どうして土がなくても育つのかな?」などのクイズを掲示し、ワクワク感や期待感を高められるよう工夫した。</p> <p>野菜の育つ過程を写真やひらがなの文章で掲示し、子どもたちが生長の変化を視覚的に理解できるようにした。</p> <p>根の様子や葉の変化など、水耕栽培ならではの観察しやすいよう配置を工夫し、日常的に観察できる環境を整えた。</p> <p>収穫した野菜をみんなで食べる機会を設けることで、「育てる」と「食べる」がにつながる経験となるよう配慮した</p>
---	--

4 探究活動を実践し記録

<p>子どもたちは、野菜の生長を日々観察の中で、「昨日より大きくなって」「根っこが長くなって」など、小さな変化に気づきながら興味を深めていた。</p> <p>また、「これはなんの野菜かな」「枝豆じゃない?」など、子ども同士で予想し合う姿も見られ、観察を通して考えたり伝え合ったりする活動へとつながっていた。</p> <p>3・4・5歳児クラスでは、収穫した野菜を食べるためにドレッシング作りも行った。普段から調理活動の中でドレッシング作りを経験していたが、今回は収穫量が少なかったため、「かけすぎるとなくなっちゃうね」など、食べる量とのバランスを考える姿も見られた。活動を通して、必要な量を考えながら作ることへの気づきにつながっていた。</p> <p>さらに、水耕栽培では根の様子が見えやすいことから、「白いひげみたい」「土がないのに育ってる」など、土耕栽培との違いに気づく姿もあり、育て方への関心が広がっていた。</p>

5. 活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関り等

<活動の内容>

<p>子どもたちは、観察ケースを見るたびに「なんの野菜かな」と予想し合い、「枝豆だよ!」「レタスじゃない?」など、友だち同士で会話を楽しんでいた。</p> <p>また、登降園時には、「今日は大きくなってね」「葉っぱが増えてる」など、親子で成長を確認し合う姿も見られ、子どもだけでなく保護者も興味・関心を寄せていた。中には毎日のように観察ケースをのぞき込み、生長の変化を楽しみにしている保護者の姿もあった。</p> <p>収穫活動では、年長クラスの子どもたちが収穫を担当し、「取れたよ!」「こんなに大きくなって」と嬉しそうに収穫する様子が見られた。収穫後には、自分たちで育てた野菜を実際に食べることで、「いつもの野菜よりおいしい」「食べられたよ」など、食への興味や達成感につながっていた。</p> <p>保育者は、子どもたちの発見や疑問を受け止めながら、「どうして土がなくても育つんだろうね」「根っこはどんな形かな」などの言葉掛けを行い、自ら考えたり観察したりする気持ちを大切にしながら関わった。また、親子での会話にもつながるよう、掲示や記録を活用しながら継続的な興味へつなげられるよう工夫した。</p>

<活動の様子が分かる写真>



6. 振り返る・共有する

<p>活動後には、写真や掲示物を見ながら、野菜の成長過程や収穫時の様子について振り返りを行った。子どもたちからは、「根っこがいっぱいだった」「水だけでも育つんだね」「また食べたいたい」など、観察や収穫を通して感じたことが聞かれた。</p> <p>また、「もっと大きくなるといい」「葉っぱが元気な時があったね」など、生長が思い通りにいかない場面について気づきを共有する姿もあった。そうした経験を通して、「どうしたら元気になるかな」「水は足りていたかな」など、原因や方法を考えようとする姿につながっていた。</p> <p>特に年長児では、野菜が順調に育たない状況について自分なりに考えたり、友だちと意見を出し合ったりする姿が見られ、問題解決につながる経験となっていた。</p> <p>保育者間でも、水耕栽培を通して、子どもたちが日常的に野菜へ関心を持って、親子で会話を楽しんだりする姿が増えていたことを共有した。また、根の観察や育ち方の違いなど、水耕栽培ならではの発見が探究的な学びにつながっていたことを確認し、今後の栽培活動や食育活動へ活かしていきたいと振り返りを行った。</p>

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-844
施設名	新宿こだま保育園
施設所在地	東京都新宿区中落合4-25-19
法人名	社会福祉法人呉竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年度 8月 月実施

食育	サブ テー マ	食べ物の旅～うんちになるまで～
-----------	---------------	-----------------

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

食育が毎日の活動に溶け込んでいる… これは当園の大きな特徴である
前年に引き続き、当園の理念「社会を生きる力を培う」の実現手段の一つとして実践。一過性の行事ではなく、毎日の活動の中で『食育』を展開することが重要と認識している。
みんなで食べるとよりおいしいことを知ってほしいためこのテーマを設定

1. サブテーマのねらい

食べたものが体の中を通り、便として排出されるまでの過程を知ること、咀嚼の大切さや、便の状態から自分の健康状態を知ることができることへの理解を深める。

2. 活動スケジュール

3・4・5歳児クラスを対象に、給食職員・看護職員による食育活動を実施する。
今回のテーマに沿ったエプロンシアターを準備する。
図鑑や絵本などを参考にしながら、活動後にも子どもたちが興味を持って振り返ることができるよう、食べ物の流れを物語形式で伝えられる内容を構成する。
当日は導入として、「今日うんちは出たかな?」「どんなうんちだったかな?」など、排便について無理のない範囲で子どもたちへ問い掛けを行う。
エプロンシアターや資料を用いながら、口から食べたものが体の中を通り、消化・吸収されて便になるまでの流れを伝える。
活動後には、給食の時間や日常生活の中で「よく噛むこと」や「食べること」への意識につなげていく。

3. 環境をデザイン

子どもたちが食べ物の通り道をイメージしやすいよう、物語形式で展開できるエプロンシアターを用意した。
食べ物が体の中をどのように進んでいくかを視覚的に理解できるように、図鑑や絵本を準備し、自由に見たり調べたりできる環境を整えた。
小腸の長さを実感できるように、実際の長さを表した紐などの教材を取り入れ、体の仕組みに興味を持ってよう工夫した。
活動後も継続して関心を持てるよう、関連する絵本や資料を保育室に設置し、日常的に振り返ることができる環境づくりを行った。

4 探究活動を実施し記録

エプロンシアターを通して、子どもたちは食べ物が口から体の中へ入り、胃や腸を通して便になるまでの流れに興味深く見ていた。特に、小腸の実際の長さを表した紐が登場すると、「こんなに長い?」「お部屋より長いかも」など驚きの声が上がリ、身近なものと比較しながら長さを実感していた。
また、「どうしてこんなに長いんだろう?」「ここで栄養を吸い取るんだね」など、食べ物が体の中でどのように変化していくのに関心を持つ様子も見られた。水分が吸収されることで便が作られることを知り、「水を飲まないとうんちが出るの?」「野菜を食べるといいの?」など、自分の生活と結び付けながら考える姿もあった。
活動の中では、「昨日カレー食べたよ」「それもうんちになるのかな」など、自分が食べたものを思い出しながら参加する様子も見られ、食べ物と体のつながりへの理解が深まっていることがうかがえた。
活動後には、子どもたちの発言や気づきを記録し、食育活動や健康教育につなげられるよう共有を行った。

5. 活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関り等

<活動の内容>

子どもたちは、エプロンシアターが始まると、「食べ物はどこに行くの?」「うんちになるの?」など興味を持ちながら話を聞いていた。
小腸や胃など体の中の仕組みについて知る中で、「いっぱい噛んだ方がいいんだね」「お水も大事なんだ」と、食べ方や生活習慣について考える様子も見られた。
また、活動後の給食では、「今日はよく噛んで食べて」「30回噛んでみる」など、自分なりに意識しながら食事をする姿が見られた。普段は苦手意識のあった野菜についても、「体にいいんだよね」と話しながら挑戦する子どももいた。
さらに、「これ体の中を通るのかな」「今お腹の中どうなってるかな」など、自分の体への関心を持つ発言も聞かれ、活動内容を日常生活へ結び付けて考える様子もうかがえた。
保育者は、子どもたちの疑問や気づきを受け止めながら、「どうしてよく噛むといいんだろうね」「どんなうんちが元気なうんちかな」などの言葉掛けを行い、自分の体や健康について考えるよう援助を行った。また、排便や食事について安心して話せる雰囲気づくりを意識しながら関わった。

<活動の様子が分かる写真>



6. 振り返る・共有する

活動後には、「お腹の中ってすごく長かったね」「食べたものがうんちになるってわかった」など、体の仕組みに驚きや興味を持った感想が多く聞かれた。
また、「いっぱい噛むと体にいいんだね」「水を飲まないとうんちが出にくいのかな」など、活動を通して知ったことを友だち同士で話し合う姿も見られた。食べ物と健康とのつながりについて、自分なりに考えを深めている様子もうかがえた。
給食時には、「今日はよく噛めたよ」「苦手だけど食べてみる」といった姿も見られ、活動で得た学びが日常の食事場面へ自然につながっていた。
保育者間では、話を聞くだけではなく、エプロンシアターや実際の長さを体感できる教材を取り入れたことで、子どもたちの興味・関心が高まり、主体的な学びにつながっていたことを共有した。また、健康や排便について安心して話せる機会となったことから、今後の食育活動や健康教育にも継続して活かしていきたいと振り返りを行った。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-844
施設名	新宿こだま保育園
施設所在地	東京都新宿区中落合4-25-19
法人名	社会福祉法人呉竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年度 10月 月実施

食育	サブ テー マ	お泊まり保育の夕食作り
-----------	---------------	--------------------

<テーマの設定理由>

<p>(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)</p> <p>食育が毎日の活動に溶け込んでいる… これは当園の大きな特徴である</p> <p>前年に引き続き、当園の理念「社会を生きる力を培う」の実現手段の一つとして実践。一過性の行事ではなく、毎日の活動の中で『食育』を展開することが重要と認識している。</p> <p>みんなで食べるとよりおいしいことを知ってほしいためこのテーマを設定</p>	<p>1. サブテーマのねらい</p> <p>お泊まり保育の夕食作りを通して、献立決め・情報収集・買い物・調理・片付けまでの一連の過程を、子どもたちが主体となって取り組む。</p> <p>また、友だち同士で相談しながら役割分担を行い、自分たちで考え、協力して進める経験を通して、達成感や自己肯定感を育む。</p> <p>保育者は、安全面に配慮しながら、子どもたち同士の相談や役割分担を見守り、必要に応じて調理手順の確認や環境調整を行うことで、主体的な活動を支える役割を担う。</p>
--	---

2. 活動スケジュール

<p>7月より、お泊まり保育で「どのようなことをしたいか」「夜ご飯に何を食べたいか」について、子どもたち同士で話し合いを始める。</p> <p>メニューについては、「ミートソースパゲティ」と「チーズハンバーグ」で意見が分かれたため、実際に両方のクッキング活動を行い、食べ比べや話し合いを経て多数決で決定する。</p> <p>9月には、メインメニューを「チーズハンバーグ」に決定し、作り方や必要な材料について情報収集を行う。</p> <p>タブレットや絵本、レシピ本などを活用しながら、「どんな材料が必要か」「どうすればおいしく作れるか」をグループごとに調べる。</p> <p>試作活動を行い、実際に作ったものを職員にも食べてもらいながら感想や評価を聞く。</p> <p>試作や話し合いの結果をもとに、子どもたちなりの工夫やアイデアを取り入れた「オリジナルレシピ」を作成する</p>	<p>3. 環境をデザイン</p> <p>子どもたちが自分たちで調理の流れを確認できるよう、既存のレシピをもとに、工程ごとの写真を並べ替えて貼る「視覚的な自作レシピ」を作成した。</p> <p>完成したレシピは子どもたちが見やすい位置へ掲示し、自分たちで確認しながら調理を進められるよう工夫した。</p> <p>タブレットやレシピ本など、情報収集のための道具を子どもたち自身が使えるよう準備し、「調べる」「比べる」「選ぶ」といった探究的な活動につながるよう配慮した。</p> <p>調理活動では、子どもたち同士が相談しやすいグループ構成や環境を整え、自然に役割分担や協力が生まれるようにした。</p> <p>また、安全に活動へ参加できるように、調理器具の配置や動線を整理し、必要に応じて保育者が援助しやすい環境づくりを行った。</p>
--	---

4 探究活動を実践し記録

<p>子どもたちは、これまでお兄さん・お姉さんが行っていたお泊まり保育の様子を見てきたこともあり、「自分たちの番」を心待ちにしながら活動へ取り組んでいた。</p> <p>準備段階では、「どんな材料を入れるとおいしくなるかな」「どうやって作るんだろう」と疑問を持ちながら、タブレットやレシピ本を使って調べる姿が見られた。また、自分たちで文字を書きながらレシピをまとめたり、必要な材料を整理したりするなど、主体的に活動へ関わっていた。</p> <p>試作活動では、「焼きすぎるとかたくなる」「チーズは中に入れた方がおいしそう」など、実際に調理したからこそ気づく発見や課題も多くあり、子どもたちなりに改善方法を考える様子が見られた。</p> <p>さらに、「こっこの味の方が好き」「もう少し野菜を入れてみたい」など、友だち同士で意見を出し合いながら試行錯誤を重ねる姿もあり、自分たちでより良いものを作ろうとする探究的な取り組みにつながっていた。</p> <p>活動中の子どもたちの発言や試作の様子は写真や記録として残し、活動の過程を振り返ることができるようにした。</p>

5. 活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関り等

<活動の内容>

<p>当日までの取り組みの中では、グループごとに役割を分担しながら、必要な食材や作り方について調べたり、実際に調理を行ったりした。</p> <p>タブレットを使用して食材を調べる中では、「こんな食材を入れたらおいしそう」「野菜を入れた方がいいかな」など、自分たちでイメージを膨らませながら話し合う姿が見られた。また、「買い物では何を探せばいいかな」と確認し合うなど、準備段階から主体的に参加していた。</p> <p>調理活動では、「私は混ぜるね」「こっちは焼く担当ね」など、自然に役割分担しながら協力して進める姿が見られた。うまくいかない場面では、「どうしたらいいかな」と友だち同士で相談したり、保育者へ確認したりしながら、自分たちで解決しようとする様子もうかがえた。</p> <p>また、完成した料理を見て、「自分たちで作ったんだよね」「いいにおいがする」と達成感や期待感を共有する姿も見られた。実際に食べる場面では、「いつもよりおいしい」「みんなで作ったから特別だね」など、協力して作り上げた喜びを感じている様子もうかがえた。</p> <p>保育者は、安全面への配慮を行いながら、必要以上に手を出さず、子どもたち同士の相談や試行錯誤を見守ることを意識して関わった。また、「どうしたらうまくできそうかな」「次は何をするんだっけ」など、子どもたちが自分で考えられるような言葉掛けを行い、主体的な活動を支援していた。</p>

<活動の様子が分かる写真>



6. 振り返る・共有する

<p>活動後には、お泊まり保育での夕食作りについて子どもたち同士で振り返りを行い、「自分たちで作ったご飯は特別おいしかった」「みんな協力してできて嬉しかった」など、それぞれが感じたことを言葉にしていた。</p> <p>また、「最初は難しそうだったけどできた」「レシピを見ながら作れた」「買い物で必要な物を探すのが楽しかった」など、準備から調理までの過程を振り返っていた。活動を通して、自分たちで話し合い、考え、協力しながら進めていくことへの達成感や満足感を味わっているようだった。</p> <p>保育者間でも、子どもたちが主体的に情報収集やレシピ作り、調理に取り組む姿について共有を行った。活動を通して、自分の考えを伝える力や友だちと相談しながら進める力、試行錯誤しながら形にしていける姿が見られ、今後の探究活動や行事活動につながる経験となったことを確認した。</p> <p>全てが予定通り順調に進行したわけではなく、分量の間違いや火加減の失敗等も多かったが、「失敗は成功のもと」という雰囲気や、子どもたちは保育者にも共通していたことが何よりの成果だったと考えられる</p>

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-844
施設名	新宿こだま保育園
施設所在地	東京都新宿区中落合4-25-19
法人名	社会福祉法人呉竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年度 10月 月実施

食育	サブ テー マ	本園の畑でさつまいもの収穫
-----------	---------------	----------------------

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
食育が毎日の活動に溶け込んでいる… これは当園の大きな特徴である
前年に引き続き、当園の理念「社会を生きる力を培う」の実現手段の一つとして実践。一過性の行事ではなく、毎日の活動の中で『食育』を展開することが重要と認識している。
みんなで食べるとよりおいしいことを知ってほしいためこのテーマを設定

1. サブテーマのねらい

自分たちで苗植えや雑草取りなどを行いながら育ててきたさつまいもを収穫し、植物の成長や収穫する喜びを体験する。また、収穫したさつまいもを使ったクッキング活動を通して、育てたものを食べる楽しさや達成感を味わう。

2. 活動スケジュール

5月に埼玉・本園の専用畑へ行き、さつまいもの苗植えを行う。
さつまいもの成長過程を継続的に観察できるように、園と畑を繋ぐカメラを活用し、保育園から畑の様子を確認する。
8月には再度本園を訪れ、雑草取りや畑の様子を確認しながら、生育状況について話し合う。
「葉っぱが大きくなっている」「前より伸びている」など、成長の変化に気づきながら継続的な観察を行う。
10月に本園の畑でさつまいもの収穫を行う。
収穫後は、収穫したさつまいもを使用したクッキング活動を行い、育てた食材を味わう経験につながる。

3. 環境をデザイン

子どもたちが継続してさつまいもの成長に興味を持てるよう、園と本園の畑を繋ぐカメラを活用し、日常的に畑の様子を観察できる環境を整えた。
成長の変化に気づけるよう、「前はどんな葉っぱだったかな」「どれくらい伸びたかな」など、以前の様子と比較できるように働きかけを行った。
雑草取りや収穫活動では、子どもたちが自分たちで土に触れたり、さつまいもを探したりできるように、安全面に配慮しながら主体的に関われる環境を整備した。
収穫後のクッキング活動へ期待感が持てるよう、「どんな料理にして食べたいか」など、子ども同士で話し合う機会を設けた。

4 探究活動を実践し記録

子どもたちは、苗植え後もカメラを通して畑の様子を継続的に観察し、「葉っぱが増えている」「前より大きくなった」など、生長の変化に気づきながら関心を深めていた。
また、雑草取りの活動では、「草があるとうなるんだろう」「さつまいもの栄養がなくなっちゃうのかな」など、植物が育つ環境について考える姿も見られた。実際に土に触れながら作業を行うことで、植物を育てるためには継続した世話が必要であることを感じている様子が見られた。
収穫時には、「どこにあるかな」「大きいおいもが出てきた」など、友だちと協力しながら土の中を探し、収穫できた喜びや達成感を共有していた。活動後は写真や会話記録を用いて振り返りを行い、苗植えから収穫までの過程を共有できるよう記録を残した。

5. 活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関り等

<活動の内容>

子どもたちは、畑へ到着すると「早く掘ってみたい」「どれくらい大きくなっているかな」と期待感を持ちながら活動へ参加していた。収穫では、土の感触を楽しみながら手で丁寧に掘り進め、「見えてきた」「つながってる」など、さつまいもが出てくる様子に驚きや喜びを感じていた。
また、友だち同士で「ここにありそうだよ」「一緒に掘ろう」と声を掛け合いながら協力する姿も見られた。自分たちで苗植えや雑草取りを行ってきた経験があったことで、「自分たちで育てたおいも」という意識を持ちながら収穫を楽しんでいた。
収穫後のクッキング活動では、「甘いおいがする」「早く食べたい」など期待を膨らませながら調理や実食へ参加していた。育てたものを自分たちで食べる経験を通して、食への興味や達成感につながっている様子が見られた。
保育者は、子どもたちの気づきや発見に寄り添いながら、「どうして土の中で育つんだろうね」「どんな形のおいもが出てくるかな」などの言葉掛けを行い、子どもたちが自ら考えたり試したりできるよう関わった。また、収穫の喜びや達成感を友だち同士で共有できるように援助を行った。

<活動の様子が分かる写真>



6. 振り返る・共有する

活動後には、写真や会話記録を用いながら、苗植えから収穫までの活動を振り返った。子どもたちからは、「小さい苗だったのに大きくなっていった」「土の中からたくさん出てきてびっくりした」など、成長や収穫に対する驚きや喜びが聞かれた。
また、「雑草を取ったから大きくなったのかな」「水も必要だったよね」など、育てる過程に必要なことを思い出しながら話す姿もあり、植物の成長には継続的な世話が必要であることへの理解が深まっている様子が見られた。
クッキング活動後には、「自分たちで育てたからおいしい」「また育てたい」などの感想も聞かれ、育てることから食べることまでの一連の経験が、子どもたちの達成感や食への関心につながっていた。
保育者間でも、継続的な観察や実体験を通して、子どもたちが植物の成長や栽培への興味を深めていったことを共有した。また、今後の食育活動や栽培活動へつながる経験として振り返りを行った。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-844
施設名	新宿こだま保育園
施設所在地	東京都新宿区中落合4-25-19
法人名	社会福祉法人呉竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年度 10月 月実施

食育	サブ テー マ	ジャック・オ・ランタン作り
-----------	---------------	----------------------

<テーマの設定理由>

<p>(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)</p> <p>食育が毎日の活動に溶け込んでいる… これは当園の大きな特徴である</p> <p>前年に引き続き、当園の理念「社会を生きる力を培う」の実現手段の一つとして実践。一過性の行事ではなく、毎日の活動の中で『食育』を展開することが重要と認識している。</p> <p>みんなで食べるとよりおいしいことを知ってほしいためこのテーマを設定</p>	<p>1. サブテーマのねらい</p> <p>かぼちゃに実際に触れたり、ジャック・オ・ランタン作りを体験したりすることを通して、季節の行事や食材への興味・関心を深める。</p> <p>また、絵本の世界と実体験を結び付けながら、「やってみたい」という気持ちを大切に、友だちや保育者と一緒に活動を楽しむ。</p>
--	--

2. 活動スケジュール

<p>エントランスに飾られていたかぼちゃを見た子どもたちから、「絵本に出てきたかぼちゃのおぼけを作りたい」という声がある。</p> <p>子どもたちの興味に合わせ、ハロウィンやかぼちゃに関する絵本を用意し、みんなで読む。</p> <p>絵本に登場するジャック・オ・ランタンについて話し合い、「どんな顔にしたいか」「どんなおぼけにしたいか」など、イメージを膨らませる。</p> <p>活動に使用するかぼちゃについて、エントランス展示用のものを使用してよいか確認を行う。</p> <p>かぼちゃナイフなど必要な道具を準備し、安全に活動へ参加できるよう約束事を確認する。</p> <p>実際にかぼちゃに触れたり、中身を観察したりしながら、ジャック・オ・ランタン作りを行う。</p> <p>活動後は完成した作品を飾り、友だちや保護者と楽しさや達成感を共有する。</p>	<p>3. 環境をデザイン</p> <p>子どもたちが季節の行事や食材へ自然に興味を持てるよう、エントランスにかぼちゃを飾り、日常の中で目に触れられる環境を整えた。</p> <p>「絵本で見たおぼけを作りたい」という子どもたちの声をきっかけに、関連する絵本を用意し、イメージを共有できるようにした。</p> <p>実際のかぼちゃに自由に触れたり観察したりできるよう、子どもの目線で見やすい位置へ配置した。</p> <p>ナイフを使用する場面では、安全面に配慮しながら、保育者がすぐに援助できる環境を整えた。</p> <p>完成したジャック・オ・ランタンを飾ることで、活動後も季節感や達成感を継続して味わえるよう工夫した。</p>
--	--

4 探究活動を実践し記録

<p>子どもたちは、かぼちゃに触れると「かたいね」「おおいね」など、見た目や感触の違いに興味を示していた。また、かぼちゃの中を見た際には、「たねがいっぱいある」「おいがする」など、五感を使って気づいたことを言葉にしていた。</p> <p>さらに、「どうして中が空っぽになるの?」「おぼけになるには顔が必要なんだね」など、かぼちゃの構造やジャック・オ・ランタンの特徴について、自分なりに考える姿も見られた。</p> <p>絵本で見たジャック・オ・ランタンを思い出しながら、「目はここにする」「こわい顔にしたい」「笑ってるおぼけがいい」など、自分なりのイメージを膨らませる様子もあった。</p> <p>活動後は、写真や会話記録を用いて振り返りを行い、子どもたちがどのようなことに興味を持ったのか、どのような発見や気づきがあったのかを記録として残した。</p>

5. 活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関り等

<活動の内容>

<p>活動前には、給食職員とも相談しながら、「どうしたらかぼちゃをくり抜けるか」「どのようにすると安全に進められるか」を確認した。子どもたちは絵本を見ながら、「どんな顔にする?」「おぼけはどんな顔かな」など話し合い、期待感を高めながら当日を迎えた。</p> <p>当日は、保育者がへタの部分を作り、中に入っている種を子どもたちと一緒に取り出した。「ぬるぬるしてる」「種がいっぱいだね」と驚きながら、興味深そうに中身を観察していた。</p> <p>その後、絵本を見比べながら「こういう顔にしたい」とイメージを伝えたり、「目は丸がいい」「口を大きくしたい」など友だち同士で話し合ったりする姿も見られた。活動中は真剣な表情で取り組み、「やってみたい」と積極的に関わりようとする様子がうかがえた。</p> <p>完成後には、中へランプを入れて光らせると、「わあ、ひかたつ」「ほんもののおぼけみたい」と嬉しそうに話し、友だちと一緒に作品を眺めながら達成感を共有していた。</p> <p>保育者は、子どもたちの発見やつづきを受け止めながら、「どんな顔にしたいかな」「絵本のおぼけと似ているね」などの言葉掛けを行い、イメージを広げられるよう関わった。また、安全面に配慮しながら、安心してかぼちゃや道具に触れられるよう援助を行った。</p>
--

<活動の様子が分かる写真>



6. 振り返り・共有する

<p>活動後は、完成したジャック・オ・ランタンを見ながら、「目がこわい顔になった」「かぼちゃの中に種がいっぱいあった」など、活動の中で感じたことや気づいたことを友だちや保育者と共有した。</p> <p>また、「絵本のおぼけみたいだった」「また作りたい」など、絵本の世界と実際の体験がつながり、活動への満足感や楽しさを感じている様子もうかがえた。</p> <p>保育者間でも、子どもたちが実際に食材に触れることで、感触や匂い、形への興味を深めていたことを共有した。また、子どもたちの「やってみたい」という気持ちを起点に活動が広がっていったことから、今後も子どもの興味や発見を大切に活動につなげていきたいと振り返りを行った。</p>
--

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-844
施設名	新宿こたま保育園
施設所在地	東京都新宿区中落合4-25-19
法人名	社会福祉法人呉竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年度 10月 月実施

食育	サブ テー マ	育てた米を飯盒炊飯で食べよう！
-----------	---------------	------------------------

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

食育が毎日の活動に溶け込んでいる… これは当園の大きな特徴である
前年に引き続き、当園の理念「社会を生きる力を培う」の実現手段の一つとして実践。一過性の行事ではなく、毎日の活動の中で『食育』を展開することが重要と認識している。

みんなで食べるとよりおいしいことを知ってほしいためこのテーマを設定

1. サブテーマのねらい

- ・自分たちで育てた米に親しみを持ち、収穫から食べるまでの流れを知る。
- ・飯盒炊飯の様子を見ながら、火や煙、炊き上がる匂いなど五感を使って楽しむ。
- ・普段と違う調理方法を体験し、“食べること”への期待感や興味を育む。
- ・保育者や友だちと一緒に特別な食事体験を共有し、楽しい雰囲気味わう。
- ・育てた食材を食べる喜びを感じ、食への関心へ繋げる。

2. 活動スケジュール

育てた米を見ながら、「みんなでそだてたおこめだね」と振り返る。
保育者が米を洗ったり飯盒へ入れたりする様子を見学する。
火を使って炊飯の様子を、安全な距離から観察する。
煙や炊き上がる匂いを感じながら、「いいにおいだね」と期待感を高める。
炊き上がったご飯をみんなで食べ、自分たちで育てた米を味わう。

3. 環境をデザイン

- ・安全面に配慮しながら、飯盒炊飯の様子が見やすい位置で観察できるようにした。
- ・炊飯前後の米を比較できるよう準備し、変化に気付ける環境を整えた。
- ・炊き上がる匂いや煙など、普段とは違う雰囲気を感じられるよう戸外で実施した。
- ・収穫した米の写真や活動の様子を掲示し、これまでの経験を振り返られるようにした。
- ・保育者が子どもの気付きや発見を丁寧に言葉にし、一緒に楽しめる雰囲気を作った。

4 探究活動を実践し記録

子どもたちは、飯盒から出る煙や炊ける音に興味を示し、じっと見つめる姿が見られた。「けむり!」「いいにおい!」と反応する姿や、炊飯の様子を指差して知らせる姿もあった。
また、白いご飯へ変化した様子を見ることで、「おこめ!」と嬉しそうに話したり、自分たちで育てたことを思い出したりする姿が見られた。普段ご飯が苦手な子どもも、自分たちで育てた米という特別感から意欲的に食べる様子があった。

5. 活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関り等

<活動の内容>

活動では、保育者が飯盒炊飯を行う様子を見ながら、炊き上がる過程を楽しんだ。0歳児は保育者と一緒に煙や匂いを感じながら安心して参加し、炊飯の様子をじっと見つめる姿が見られた。1歳児は、「まだかな?」「たべたいね」と期待を膨らませながら観察を楽しんでいた。
炊き上がったご飯を見た際には、「わあ!」と嬉しそうなお顔を見せ、自分たちで育てた米を味わうことに喜びを感じている様子だった。
保育者は、「おこめがごはんになったね」「みんなで育てたね」とこれまでの経験を振り返りながら言葉を掛け、一緒に達成感や喜びを共有した。

<活動の様子が分かる写真>



6. 振り返る・共有する

育てた米を実際に炊いて食べる経験を通して、子どもたちは“育てる・収穫する・食べる”までの繋がりを感じていた。特に、普段とは違う飯盒炊飯という特別な体験が、食への興味や期待感へ繋がっていた。

また、炊き上がる様子を見たり匂いを感じたりすることで、五感を使って食事を楽しむ姿が見られた。今後も、子どもたちが食材や調理に親しみを持ってやるような体験を取り入れていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-844
施設名	新宿こたま保育園
施設所在地	東京都新宿区中落合4-25-19
法人名	社会福祉法人呉竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2025年度 3月 月実施

食育	サブ テー マ	次年度年長児の初本園（埼玉）畑作業 現・年長クラスから来年度年長クラスへの引き継ぎ
-----------	---------------	--

<テーマの設定理由>

<p>(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)</p> <p>食育が毎日の活動に溶け込んでいる… これは当園の大きな特徴である 前年に引き続き、当園の理念「社会を生きる力を培う」の実現手段の一つとして実践。一過性の行事ではなく、毎日の活動の中で「食育」を展開することが重要と認識している。</p> <p>みんなで食べるとよりおいしいことを知ってほしいためこのテーマを設定</p>	<p>1. サブテーマのねらい</p> <p>埼玉・本園で、土や植物に触れながら畑作業を体験。また、現年長児から畑作業や苗の植え方を教わる経験を通して、次年度に年長児となることへの期待感や意欲を高める。さらに、じゃがいも苗の植えを通して、植物の成長や育てることへの関心を深める。</p>
---	---

2. 活動スケジュール

3週間前より、埼玉・本園へ行くためのバス手配や、本園担当者との打ち合わせを行う。

1週間前には、当日植える作物について子どもたちと話し合いを行い、じゃがいも苗の植えを行うことを決定する。

活動に必要な肥料や道具等の準備を行う。

ねむのき組（4歳児）へ、本園の畑活動や年長児が行っている役割について説明し、次年度への期待感につなげる。

当日

8:30に園を出発、10:30に埼玉・本園へ到着。

現年長児（けやき組）と一緒に畑作業を行い、苗の植え方や作業の流れについて教わる。

畑作業終了後は、園庭遊びなど本園の園児との交流活動を行い、14:00本園発、15:40に園へ帰着。

3. 環境をデザイン

次年度の活動へ見通しや期待感が持てるよう、事前に「3月になったら、けやき組と一緒に埼玉・本園へ行き、畑のお世話を引き継ぐこと」をねむのき組へ伝えた。

子どもたちが安心して本園活動へ参加できるよう、写真や過去の活動の様子を共有しながら、本園でのような活動を行うのイメージできるようにした。

「どんな野菜を植えるのか」「畑ではどんなことをするのか」など、子どもたち同士で話し合う機会を設け、自分たちが活動へ主体的に関われるようにした。

当日は安全に移動・活動できるようバスを手配し、畑では土や苗に十分触れながら活動できる環境を整えた。

現年長児が自然に教えたり関わったりできるよう、交流しやすい活動の流れや環境づくりを行った。

4 探究活動を実践し記録

埼玉・本園の畑へ行くことを楽しみにしていたねむのき組の子どもたちは、当日バスへ乗る際には期待感を持ちながらも、少し緊張した様子もあった。

畑へ到着すると、けやき組の子どもたちが苗の植え方や道具の使い方、作業の流れなどを丁寧に伝える姿があり、ねむのき組の子どもたちも真剣に話を聞きながら活動へ参加していた。

苗植えでは、「これくらい掘るのかな」「やさしく土をかけるんだね」など、実際に土へ触れながら気づいたことを言葉にし、友だちや年長児と確認し合う姿が見られた。また、「来年は自分たちが教えるのかな」など、次年度への期待感につながる発言も聞かれた。

活動後には写真や会話記録を用いて振り返りを行い、畑で感じたことや年長児との関わりについて共有できるよう記録を残した。

5. 活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関り等

<活動の内容>

子どもたちは畑へ到着すると、「広いね」「土がふかふかしている」など、普段の園生活ではなかなか経験できない環境に興味を示していた。

けやき組の子どもたちが「ここに置くんだよ」「土をやさしくかけるんだよ」と教えると、ねむのき組の子どもたちはその様子を見ながら真似をしたり、「できたよ」と嬉しそうに伝えたりする姿が見られた。

また、じゃがいも苗や土に触れながら、「これがおいになるの?」「どれくらい大きくなるかな」など、植物の成長への関心を持つ様子も見られた。年長児との関わりを通して、「自分も来年は教える側になりたい」という気持ちが芽生えている様子もうかがえた。

保育者は、子どもたち同士の自然な関わりを見守りながら、必要に応じて安全面への配慮や言葉掛けを行った。また、子どもたちの気づきや発見に寄り添い、「どんなふうに育つか」「来年はどんなことをしてみたい?」などの言葉掛けを通して、期待感や探究心が広がるよう援助を行った。

<活動の様子が分かる写真>



6. 振り返る・共有する

活動後には、撮影した写真や会話記録を見ながら、本園での畑活動について振り返りを行った。子どもたちからは、「土がやわらかかった」「お兄さんたちが教えてくれた」「また行きたい」など、活動の中で感じたことが聞かれた。

また、「じゃがいもができるのが楽しみ」「来年は自分たちが小さい子に教えてあげたい」など、植物の成長への期待だけでなく、年長児になることへの意識も高まっている様子が見られた。

保育者間でも、年長児との交流を通して、子どもたちが安心感や憧れを持ちながら活動へ参加していたことを共有した。また、実際に土や苗に触れる経験が、植物への興味だけでなく、次年度への期待感や主体性につながっていることを確認し、今後の栽培活動や異年齢交流へ活かしていきたいと考えている